

(7) 未利用地の状況

○中心市街地（小倉都心地区・黒崎副都心地区）の状況を見ると、未利用地が点在しています。  
 ○未利用地が増加した場合、まちの賑わいや拠点機能の低下が懸念されます。

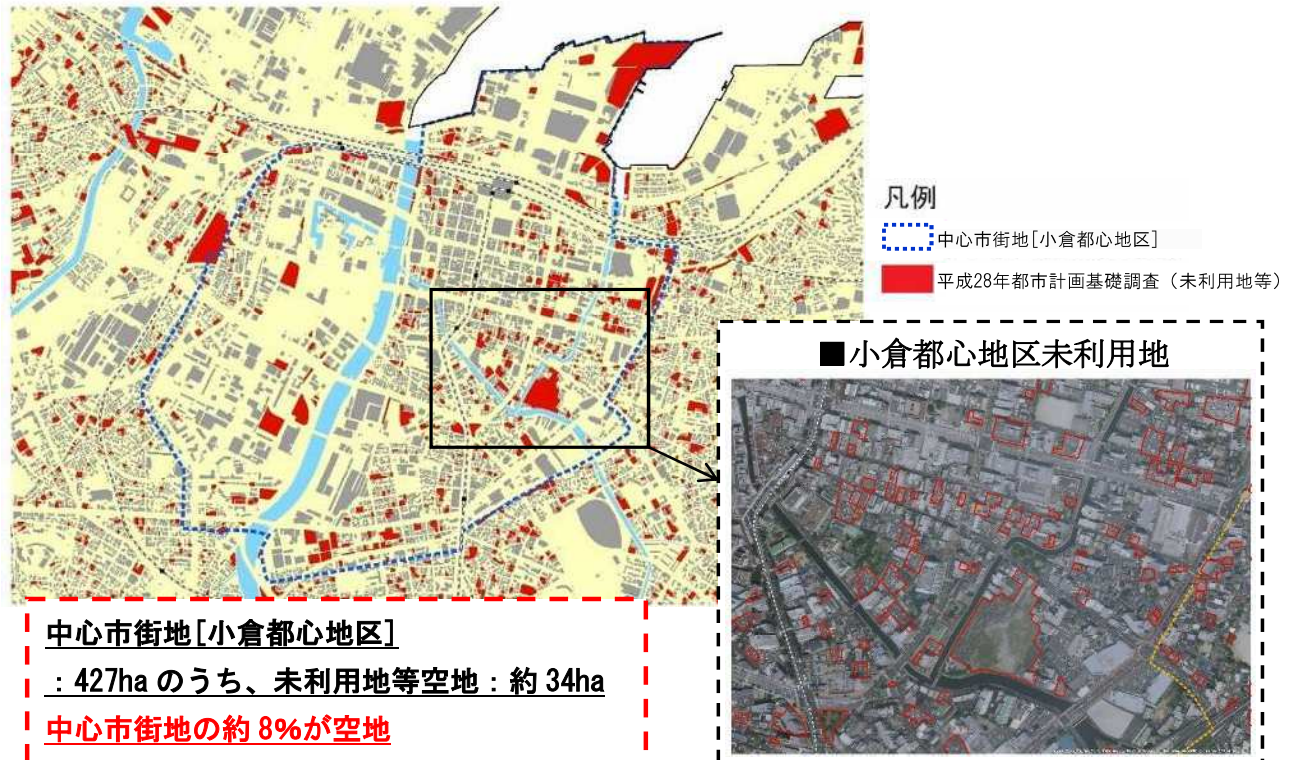


図 中心市街地およびその周辺における空き地の発生状況（小倉都心地区）

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成28年）」

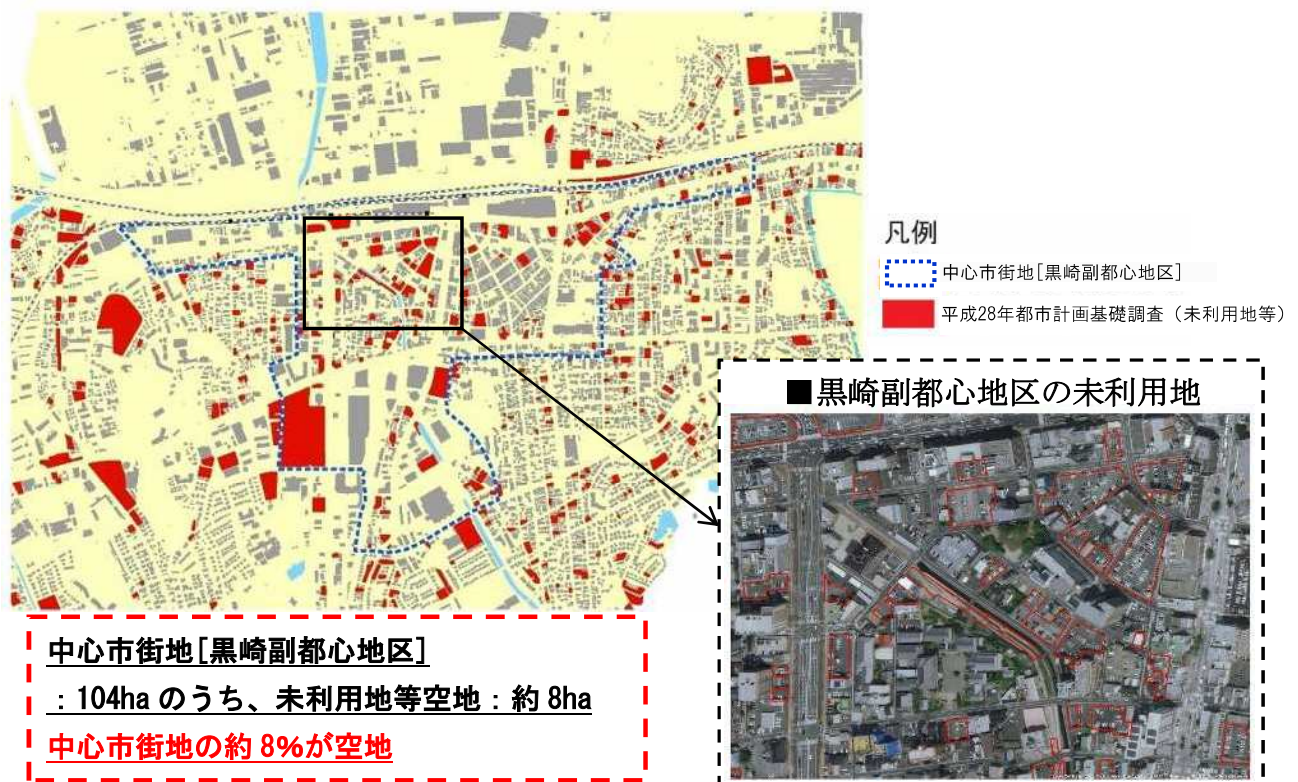


図 中心市街地およびその周辺における空き地の発生状況（黒崎副都心地区）

出典：北九州市「都市計画基礎調査（平成28年）」

3-6 都市交通

(1) 公共交通の状況

- JRは全ての区を連絡しており、小倉駅ではモノレール、黒崎駅では筑豊電鉄と接続しています。駅の乗降客数は、小倉駅、折尾駅、黒崎駅で多い状況です。
- バスは、鹿児島本線の鉄道駅を中心とした系統や国道沿い等で運行本数が多い状況です。

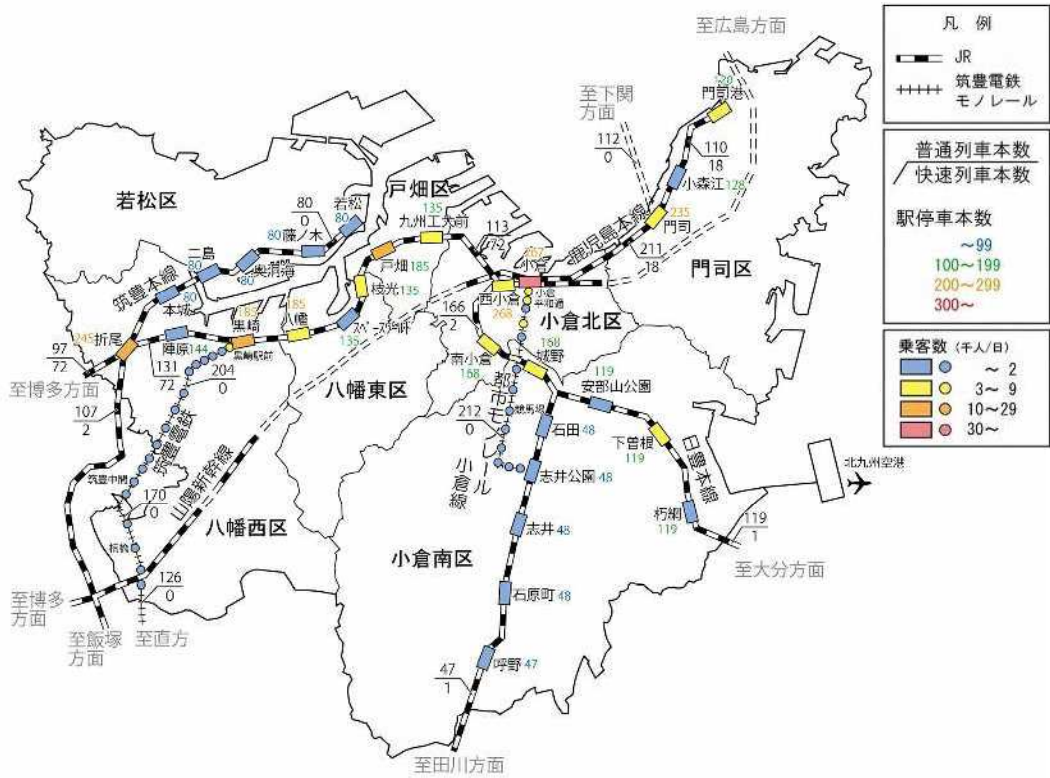


図 北九州市における鉄(軌)道の現状

出典：列車、駅停車本数は各機関のホームページ（令和2年7月）調べ。駅乗車人員は、北九州市資料（令和元年度実績）

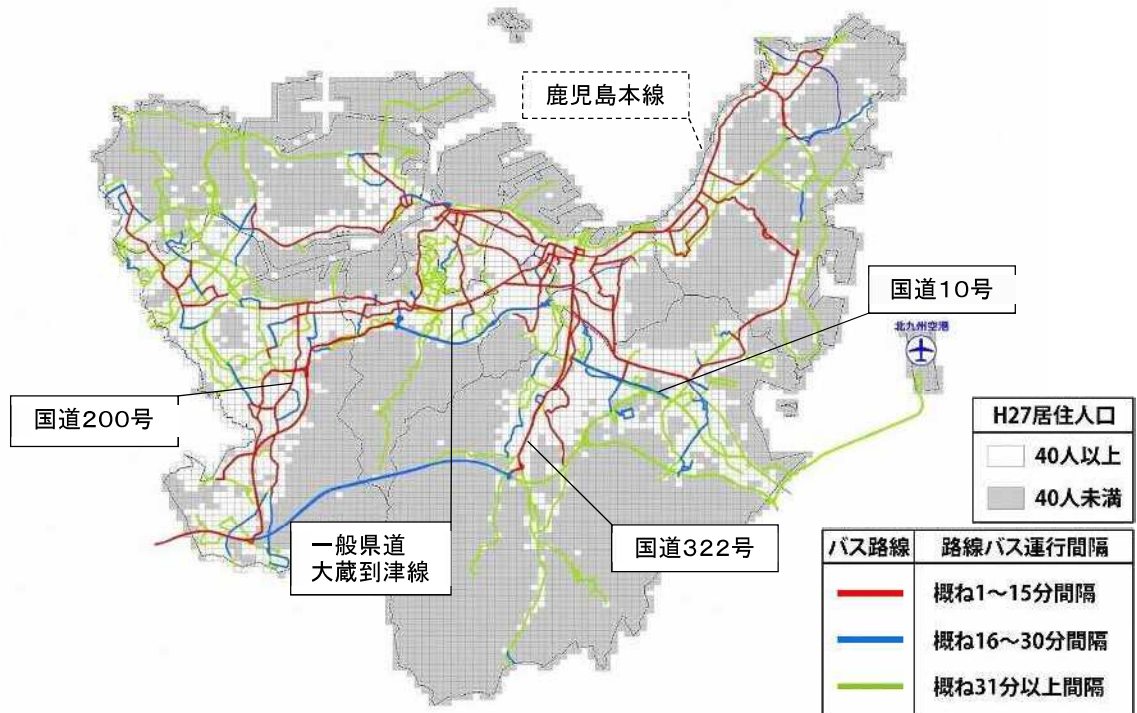


図 北九州市の運行本数ランク別バス路線網

出典：バス路線は第5回北部九州PT調査に用いた公共交通データ(ナビタイム社作成)を基に作成  
人口は平成27年国勢調査人口メッシュデータ

(2) 公共交通の利用圏

○公共交通人口カバー率は86.3%、公共交通空白地域の人口は約13万人となっています。

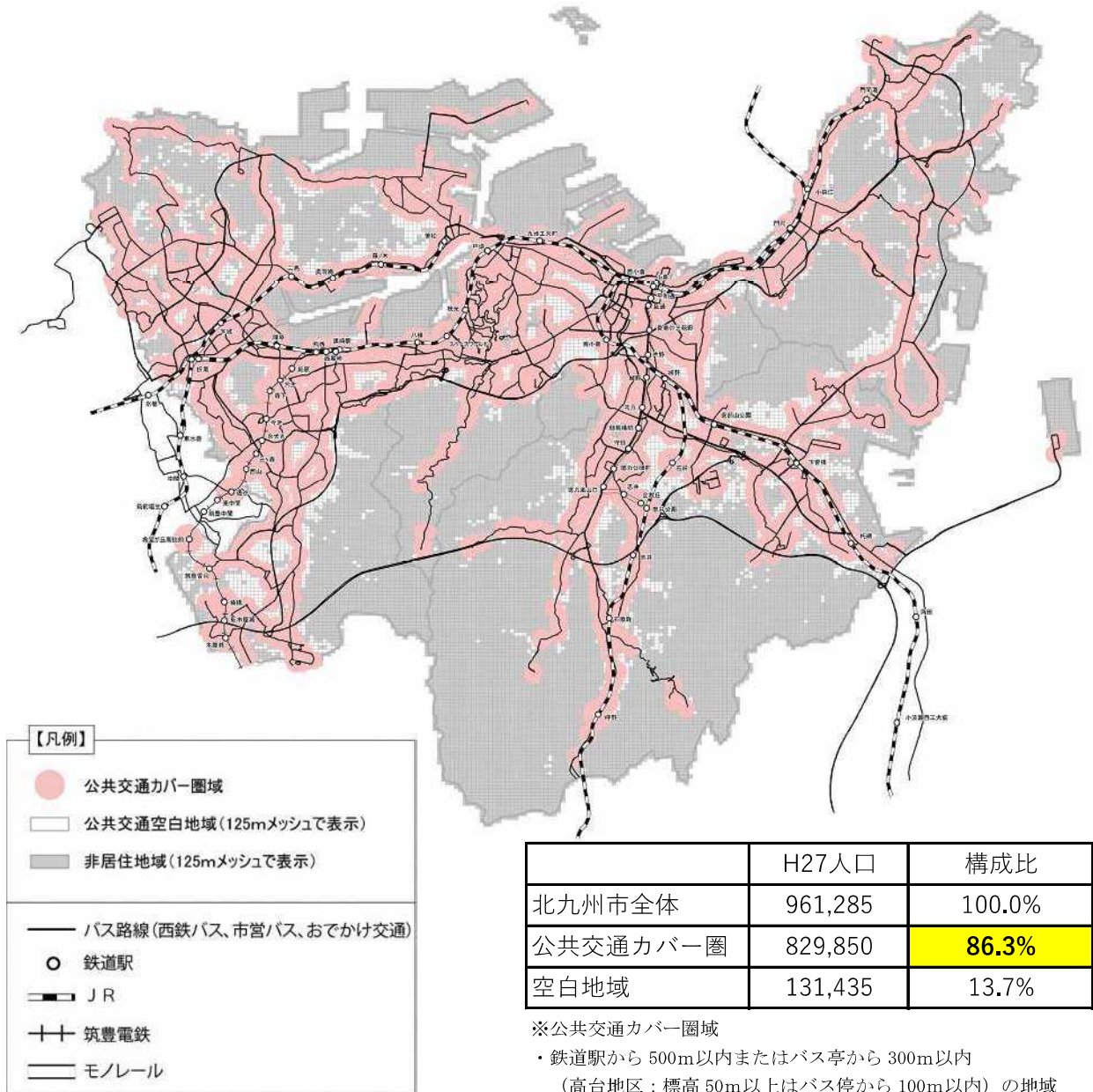


図 北九州市における公共交通カバー地域と空白地域

出典: 北九州市環境首都総合交通戦略(北九州市地域公共交通計画)

(3) 公共交通の動向

- 公共交通利用者数は、平成17年頃まで減少し、以降横ばいとなっています。
- バス路線は平成13年から令和2年までに69路線（約151km）が廃止されています。

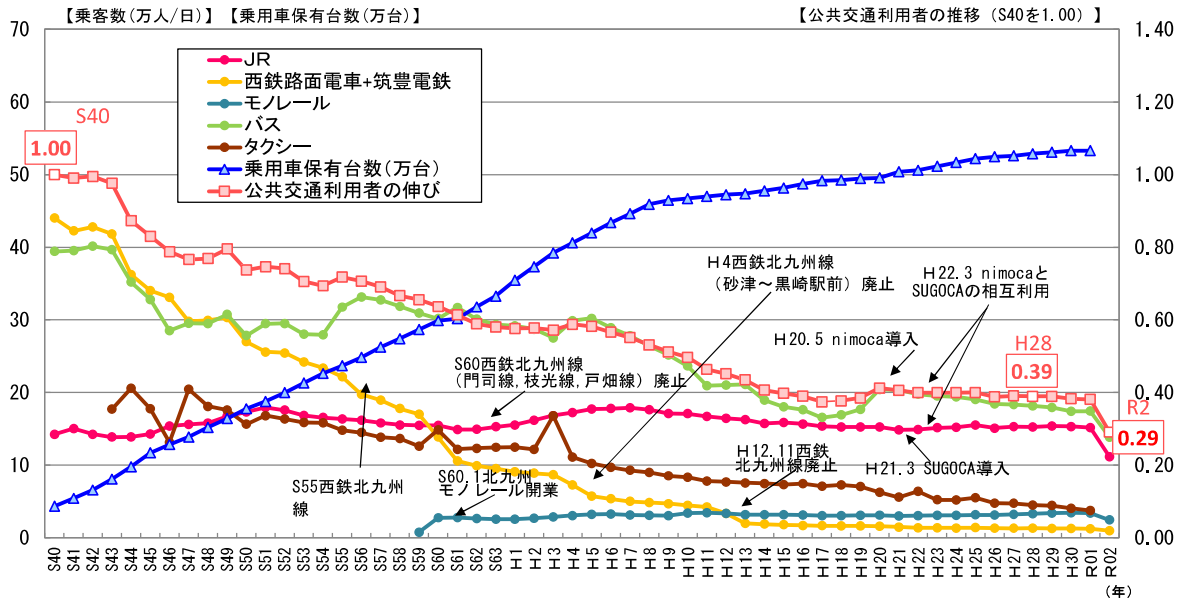


図 北九州市における公共交通利用者数の推移

出典:北九州市統計年鑑(各事業者調べ)

●JRは、北九州市内のJR駅乗客数の合計(含む新幹線小倉駅) ●自動車は乗用車と軽自動車の合計

●バスは、交通局、西鉄バス北九州、西鉄北九州観光、北都観光バス

●公共交通計の伸びは、タクシーを除く交通機関利用者の合計で算出

※データ取得の関係上、筑豊電鉄の個別データは昭和61年以降、タクシーは昭和43以降について表記しています。

※JRは平成29年は未取得のため平成28年と平成30年の平均値、平成30年、令和元年は上位300駅の乗客数のみ(新幹線小倉駅はデータ有)を表記しています。

※タクシーは令和元年データ未取得のため、前年値を記載しています。

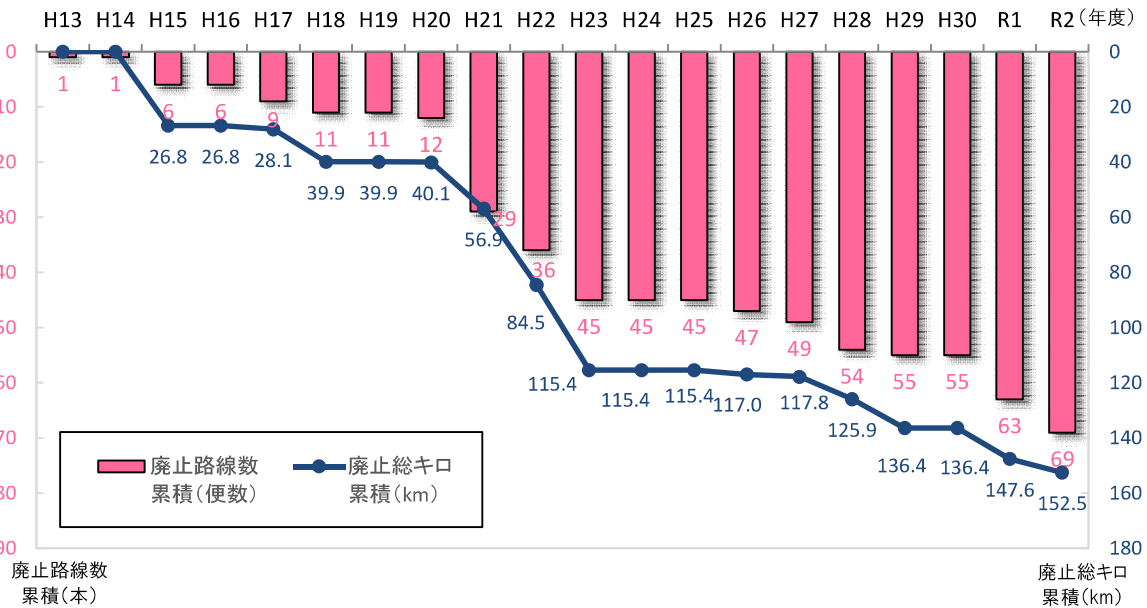


図 北九州市内のバス廃止路線数及び路線総延長の推移

出典：北九州市調べ

(4) 市民の交通行動の動向

- 北九州市の公共交通の交通手段分担率について経年変化を見ると、近年歯止めがかかっているものの、低下傾向にあります。
- 一般的には、市街地(DID地区)の人口密度が低いほど自動車依存度が高く、本市は、政令市中で、DID地区人口密度が最も低く、自動車分担率が2番目に高い状況にあります。

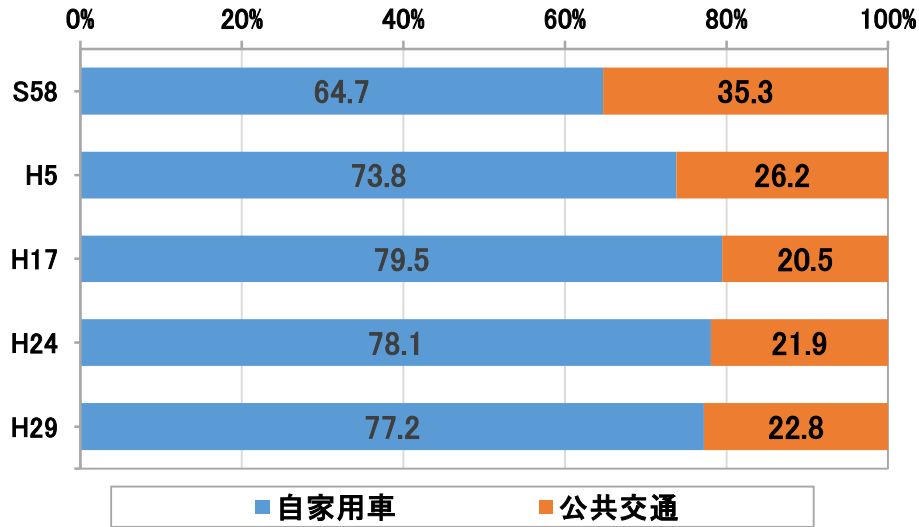
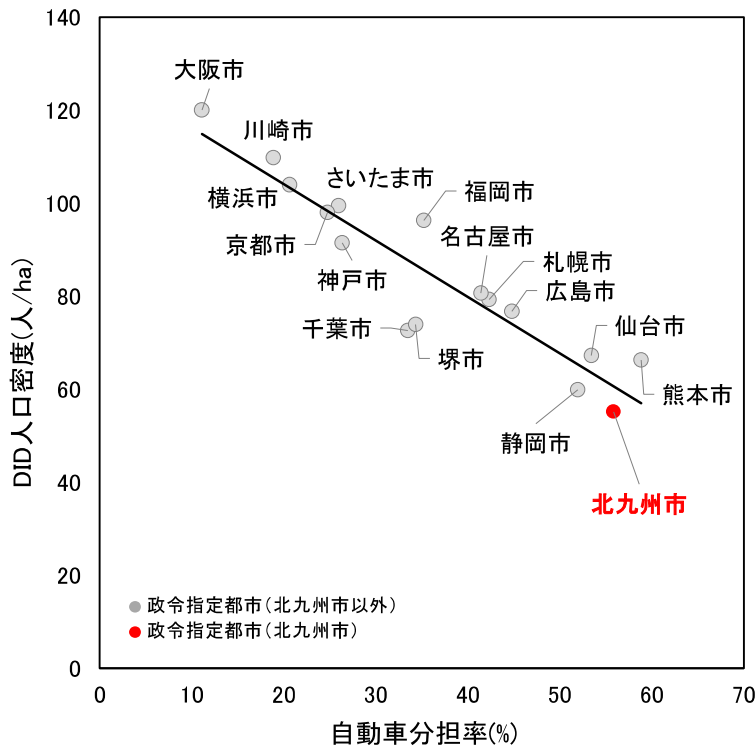


図 北九州市の交通手段分担率の推移

出典：北部九州圏都市交通計画協議会「北部九州圏パーソントリップ調査」  
 H29は第5回北部九州圏パーソントリップ調査(5PT、平成29年)  
 ※北九州市居住者を対象とする

注)交通手段分担率：(自家用車又は公共交通利用者数) / (自家用車および公共交通利用者数)  
 注)平成24年の公共交通分担率は、第4回パーソントリップ調査(平成17年)による北九州市内の分担率をベースとして、平成17年から平成27年の公共交通利用者数の増分を自家用車からの転換量と見なして算出。



注)自動車分担率：(自家用車利用者数) / (徒歩、自転車等を含む全交通手段利用者数)  
 注)政令指定都市のうち、調査対象となっていない、相模原市、岡山市、浜松市、新潟市は除く

図 自動車分担率とDID人口密度の関係

出典：国土交通省「平成27年度全国都市交通特性調査」、総務省「平成27年国勢調査」

(5) 生活利便施設の立地

○公共施設、病院、教育施設など、生活利便施設は主要な交通軸上に多く立地しており、旧来からの市街地を中心に、人口、生活利便施設が集積し、公共交通が特に便利な地域が形成されています。

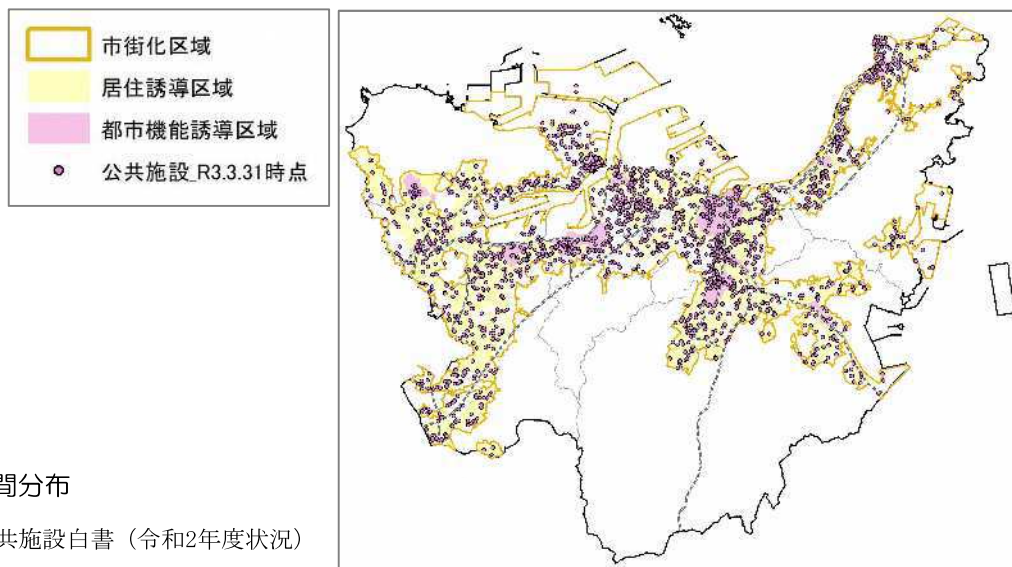


図 公共施設の空間分布

出典：北九州市公共施設白書（令和2年度状況）

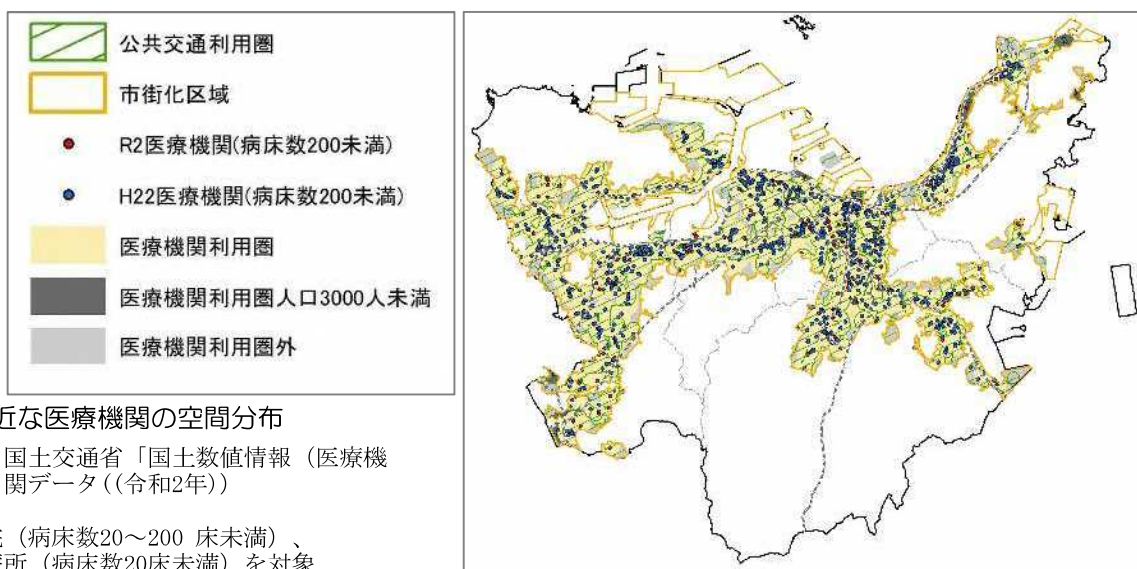


図 身近な医療機関の空間分布

出典：国土交通省「国土数値情報（医療機関データ）（令和2年）」

◆病院（病床数20～200床未満）、診療所（病床数20床未満）を対象

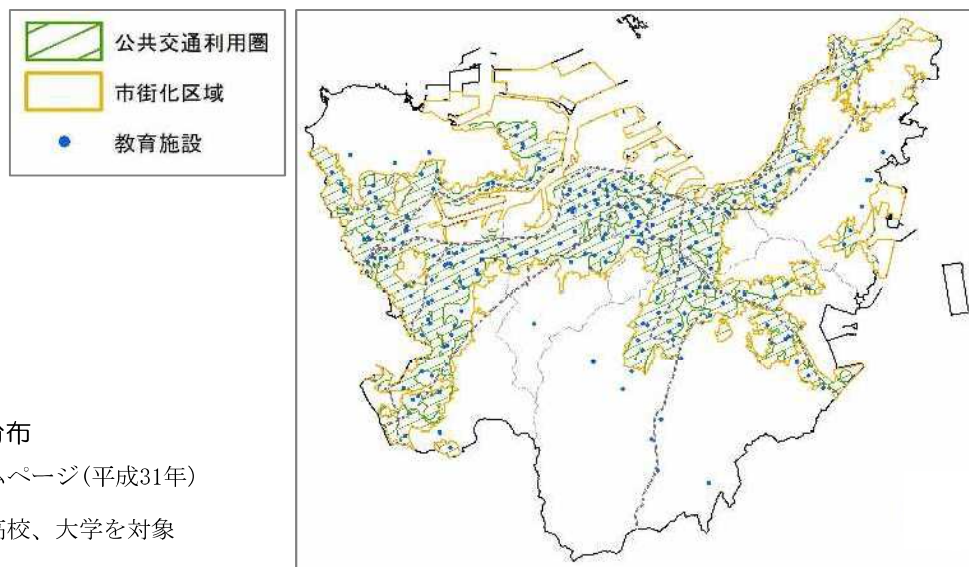


図 教育施設の空間分布

出典：北九州市ホームページ（平成31年）

◆小学校、中学校、高校、大学を対象

3-7 経済・財政

(1) 経済

①小売業販売額の動向

- 事業所数は減少傾向にあり、平成26年以降に大きく減少しているものの、売場面積は一定程度維持されています。
- 小売業商品販売額・床効率（単位床面積あたりの小売業年間商品販売額）は減少傾向にありますが、平成28年は上昇に転じています。

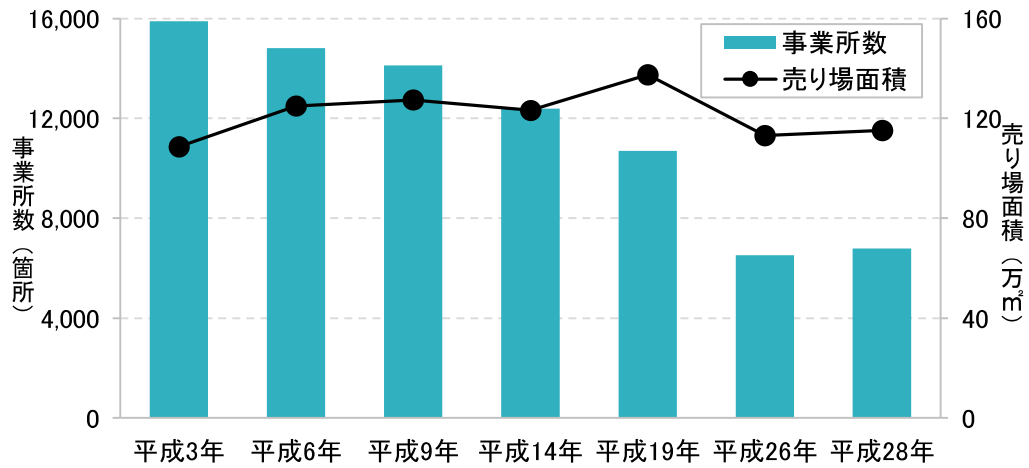


図 小売業の事業所数・売場面積の推移

注) 「経済産業省経済産業政策局調査統計部 平成14・19・28年 商業統計表」及び「通商産業省編 平成3・6・9年 商業統計表」の掲載数値から作図。

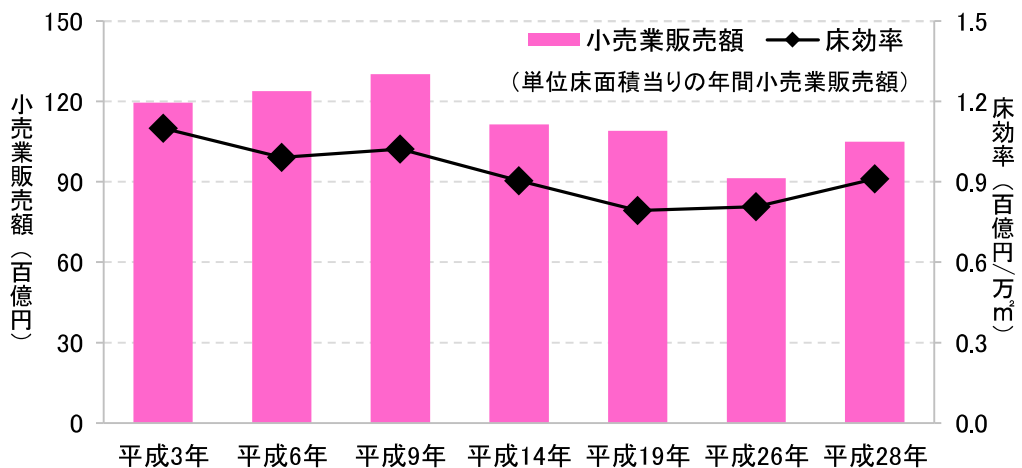


図 小売業販売額の推移

注) 「経済産業省経済産業政策局調査統計部 平成14・19・28年 商業統計表」及び「通産省業省編 平成3・6・9年 商業統計表」の掲載数値から作図。  
なお小売販売額は掲載数値にデフレーター補正を実施したものである。